

飯島賢二の『恐縮ですが・・・一言コラム』

第 234 回 間違っても当たり前的大予測～厳しい年の幕開け？2008 年

2007. 12. 30

毎週書き続けたコラム、2007 年の最終回となった。よくも 1 年続けたし、よくもずっと読んでくれた。感謝・感謝である。いよいよ 2008 年、色々な経済研究所、学者の先生方の予測が発表されているが、「予測」なるもの、殆んど当たったことがないのも、事実。偉い先生方もこれじゃ～細木^{なにかし}某たる、限りなくいかさま師と大差がない。さて今回は…。

長嶋茂雄流の「動物的勘」で、小生なりの 2008 年、間違っても当たり前的大予測である。

まず、何度となく警鐘を鳴らしてきたが、今の時代、国内事情だけで経済や政治が動いているわけではない。しかも、経済と政治が表裏一体であるという事実、政財学界問わず、こんな、当たり前のこと分かっていない日本のトップリーダーが舵取りしている限り、世界の常識についていけない。世界の経済政策の潮流に、全く日本だけが無視され続けている状況は、来年も変わらないだろう。

問題は、「円」に対する評価がどうなるか、最大のポイントといえるだろう。現状はかろうじて「円高」で推移しているが、これは「円」の実力というよりは「ドル売り」傾向といってい。いわゆる「プッシュ売り」であり、ドルの実力以上に過小評価されている。でも、ドルの底力はこんなものではないと思っている。ドルに代わり「ユーロ」、益しては「元」が世界の基軸通貨になる日は、恐らく、小生は生きていない時代だろう。ヒラリー・クリントンか、どうか、新しい大統領が決まり次第、ドルは再び力を持ち出すに違いない。

来年はサブプライムローンも落ち着かず、シティグループもすでに万全の体制を整えた。オイルダラーの行方は、投機筋もそろそろ投資に向けて動き出しており、そのマーケットは世界市場となっている。この時期は 2008 年当初と見る。

詳細の微視的状況は、専門情報をご覧あれ。ともかく日本の 2008 年は「インフレ」傾向に向かうはずである。原油の価格上昇は一段落するが、かつての値段には戻らない。原油の高騰は建材・建設関連、衣料、自動車、食品と多岐多様にわたって諸物価を上昇させる。2 月までに公共料金も値上げが続く。株価は、個人投資家の 6 割が外国人であるゆえ、その実態は日本売りに走っている。外貨準備高は中国に抜かれ、世界的に安全性を誇示することができにくくなっている。日銀は金利を上げないといっているが、どこまで耐えられるか、はなはだ疑問がある。いくら国債費を削った予算を作っても、金利が上がれば、「絵に描いた餅」、福田内閣は「砂上の楼閣」で、いつ潰れてもおかしくない。政治が混乱すればするほど、世界的信用度が凋落する。物価が上がって個人の所得もそれに伴い上昇すればいいが、そうはいかないのが今の状況。個人消費が伸びない限り、GDP も増加しない。

いやはや、「悪の連鎖」である。こんな脅しをかけながら飯食^{くわい}っているのが「評論家」、飯島も評論家に成り下がってしまったか！

そうはいかずと、頑張るのが、実は 2008 年の最大のテーマであろう。原点回帰、本業^{まっとう}全う、真剣勝負、つまり、「前進・発展・向上」の真価が問われる年だと認識している。